

### 1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4074100100
法人名	医療法人 成雅会
事業所名	グループホーム「陽だまりの丘」
所在地	福岡県粕屋郡須恵町大字新原14番地の7 (電話) 092-957-9595

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成19年6月27日	評価確定日	平成19年8月3日

【情報提供票より】 (平成19年6月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13年4月1日		
ユニット数	4 ユニット	利用定員数計	36 人
職員数	34 人	常勤 22人, 非常勤 12人, 常勤換算 28人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2階建ての 1 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,000 円	その他の経費(月額)	61,320 円	
敷金	(有) (100,000 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( ) 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	450 円
	夕食	580 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (平成19年5月31日現在)

利用者人数	36 名	男性	7 名	女性	29 名
要介護1	7 名	要介護2	10 名		
要介護3	7 名	要介護4	9 名		
要介護5	2 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 84 歳	最低 72 歳	最高 96 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人成雅会 泰平病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、住宅街から離れた工業団地の中に位置している。病院と介護老人保健施設を母体とした医療法人が開設し、健康管理や利用者の重度化に柔軟に対応している。鉄筋2階建の4ユニットであるが、畑・花壇に囲まれ、施設的な雰囲気は感じられない。共有部分は十分なスペースがあり、居室内は各々に趣を異にし家庭的である。利用者は、ゆったりとした時間の中でその人らしいペースでそれぞれに尊厳をもって生活している。またISO9001の認証取得、きめ細やかな業務に関する手順書が作成されている。管理者は全職員の計画的な教育の構築や独自の職員評価表を作成し、職員の待遇改善や介護の質の向上を目指している。そして、職員からの信頼も厚く、円滑な職場環境作りがなされ、4ユニットという複数規模にかかわらず、全体的にまとまっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価では地域との交流が改善項目であった。その後、積極的に取り組み、管理者は行政へ連携を働きかけ、委託講演を行っている。また、行政・地域の住民に対し、運営推進会議への参加を積極的に働きかけるなど、地域との交流の取り組みを行っている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価に対する取り組みとして、4ユニットのリーダーが各々に自己評価を作成しているが、評価の意義について全職員で協議しての取り組みは行っていない。今後、その評価を活用し、全職員が一丸となって取り組んでほしい。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は地域・行政・家族会・職員で構成しているが、参加委員が会議毎に変わり、会議内容が事業所の概況説明に終始している。今後は現在抱えている問題を相談し、アドバイスを受け、運営や介護サービスに活かせる取り組みを行ってほしい。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9) 家族の苦情・相談については、管理者及び母体施設である病院のソーシャルワーカーが相談窓口になり、対応している。家族からの意見については随時職員が聴き取り、その内容を事業の運営に反映するよう努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 毎年、地域の夏祭りに参加し、利用者の作品販売等バザーを開催している。近隣の中学生の職場体験・福祉専門学校学生の実習・ボランティアの受け入れや、幼稚園児との交流等地域との連携は積極的に行っている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	誠心・誠愛・誠優・誠笑を基本方針とし、地域密着型の視点を活かし、職員が事業所独自の理念を作成している。理念は利用者・家族・職員の目につく場所に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回の全体会議で理念の大切さを職員間で確認している。理念の遂行のために、教育・感染・広報・レクリエーションの委員会を作成し、日々取り組み、共有している。		
<b>2. 地域との支え合い</b>					
3	5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭りでバザーを開催したり、幼稚園の運動会等の行事に参加している。事業所の敬老会に招待するなど、地元の人々と交流することに努めている。また、近隣の中学生の職場体験や福祉専門学校の実習を受入れている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価改善項目の「地域に開かれたホーム作り・運営推進会議の開催」については、改善に取り組んでいる。今回の自己評価は各ユニットのリーダーが作成しているが、評価の意義について全職員で協議しての取り組みは行っていない。	○	自己評価について全職員で協議し、取り組んで作成してほしい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い、行政職員・地域の住民・家族・職員が参加している。会議は、行政の参加者が会議毎に変わるため、事業所の概要説明に終始している。前回の外部評価の結果も報告しているが、客観的な意見やアドバイスを受けるまでには至っていない。	○	各委員から、事業所に関しての意見交換やアドバイスを頂き、運営やサービス向上に反映できる会議運営を行ってほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は行政担当者に積極的に働きかけ、行政事業を受託する等、協働してサービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者・チームリーダーは権利擁護の研修を受講しており、地域権利擁護事業・成年後見制度の資料はあるが、職員に伝達は行っていない。	○	今後この制度を利用する機会があると考えられるので、早急に勉強会等を実施し、全職員が利用者に説明できるように取り組んでほしい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
8	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1～2回の家族の訪問時に、利用者の近況報告をし、家族の要望や意見を聴き、金銭出納帳をみせて確認のサインを貰っている。3ヶ月に1回、全家族に利用者の暮らしぶりや健康状態を、ホーム便りや写真とともに送付している。また利用者の状態の変更時は電話連絡し、必要に応じた個別支援をしている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談苦情は、管理者及び母体病院のソーシャルワーカーが窓口となり、対応している。職員は家族等からの意見、苦情を随時聴き取り、要望に応じた対応をしている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、馴染みの関係の大切さを理解しており、職員の異動は必要最小限に抑える努力をしている。また、日常的にユニット間で交流し、職員は利用者と同様親しい関係を作っている。やむを得ない職員の退職や異動時には、利用者へのダメージが少ないように引き継ぐ等の配慮をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の募集・採用にあたっては、性別や年齢等を理由に採用対象から排除していない。事業所は、職員の資格取得について、その権利や機会を確保している。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権をテーマにした研修は、管理者等が受講している。法人の研修会で「身体拘束」の研修が行われ事業所から数名が参加しているが、全職員への伝達講習は行っておらず、人権教育の浸透には至っていない。</p>	○	<p>人権に対する研修会等への参加の機会を積極的に作ってほしい。また、事業所内部で全職員に伝達研修を行ってほしい。</p>
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内で内部研修や事例報告を行い、職員が交代で参加している。また、職員は希望する外部研修を受講し、他の職員へ伝達研修も行っている。事業所内で独自に学習委員会を組織し質の向上に努めている。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>福岡県グループホーム協議会に加入している。管理者及び職員は、協議会の研修に参加するなど、他の事業所と交流する機会を持っている。また、協議会に加入している事業所間で相互訪問を行い、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>希望者には本人や家族に事業所を見学してもらい、十分に希望・意向を聴き取り、安心したうえで入居できる工夫を行っている。待機者には利用者・家族の希望に沿って、同法人内の隣接する老人保健施設のデイケア・ショートステイを利用してもらいながら入居に繋げている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理や掃除などを共に行い、職員が知らない生活の利用者から教えてもらう場面がある。利用者の得意分野では力を発揮してもらいながら、職員と利用者が共に過ごし、学び、支えあう関係を築いている。		
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	35	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で家族・利用者への声かけを行い、思いや意向の把握に努めている。言葉での意思疎通の困難な利用者には、筆談を用いて思いや意向の聴き取りに努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族の思いや意見を聴き、介護計画に反映している。アセスメントを含め職員間で意見交換を行い、情報を共有し、計画を作成している。家族が遠方の方へは、3ヵ月に1回、近況報告とともに介護計画の立案を送付し、その際に家族の意見を聴いている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に介護計画の見直しを行うとともに、月1回のミーティングの場で、介護計画の内容について話し合いを行っている。また、状況変化時には随時見直しを行い、家族に報告している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人全体での医療体制の充実を活かし、利用者の入院回避に努めている。利用者の入院にあたっては、事業所・家族・利用者・医療機関と連絡・連携を図り、早期退院に取り組んでいる。職員は利用者の通院支援を行い、必要時には看護師である管理者が付き添いをしてしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医への通院支援を行っている。事業所の協力医療機関でも医療を受けられるように支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者・家族に入居時または必要時期に書面を含めた説明を行っている。利用者・家族、かかりつけ医、事業所の全員で話し合い、方針を共有している。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	研修等で全職員の意識化を図り、諸場面での声かけや対応については、日常的にプライバシー確保を心がけ、ケアを実践している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の固定したスケジュールは特にない。一人ひとりの表情や行動等、様子を見て、今は何をしたいのかを察するようにしている。また、希望があれば柔軟に対応している。		
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は同じものを一緒に食べ、利用者は会話をしながら自分のペースで食事を楽しんでいる。食前の準備や食後は皿洗いや食器拭きを職員と一緒にやっている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週5日入浴できるが、利用者の状態等により、職員の勤務体制にあわせて決まった時間に入浴しており、利用者の希望やタイミングに合わせての支援が十分とは言えない。入浴を拒否する利用者には、言葉かけや誘導で入浴を支援している。	○	業務内容の見直しや検討を行いながら、一人ひとりの希望する入浴を行うようにしてほしい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑作業、梅干やらっきょ漬け、調理の味見・手伝い等、興味があることや得意なことを見つけて役割の支援を行っている。また歌やカラオケもあり、気晴らし支援をしている。		
28	63	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に応じて、毎日の散歩や週3回のスーパーへの買い物、月4回程度の年間行事を含めたドライブがある。希望にそった外出支援を行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、居室や玄関は施錠していない。センサーは玄関や出入口に設置しているが、それに頼らず、職員の見守りや連携で鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
30	73	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、事業所で避難訓練を実施している。事業所が一般の住宅地と離れた場所に立地しており、地域住民の参加は行われていない。消防団に連絡する火災用のブザーを設置しており、緊急時の役割や連絡体制など詳細なマニュアルも作成している。	○	避難訓練時に地域消防団等へ参加を依頼し、地域との繋がりの確保に努めてほしい。また非常用食料の確保、非常用備品の確認と点検を実施してほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士と全職員で、利用者の業態や希望にあわせて、献立を作成している。食事摂取量を確認し、記録している。水分摂取には気をつけているが、水分摂取量の記録はない。	○	水分摂取量は、おおまかでもチェックし、記録を残すようにしてほしい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間はユニット毎に個性があり、装飾の小物や古い家具等を配置し、落ち着いた家庭的な雰囲気である。職員の声の大きさは適当で、採光も落ち着いた。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が使い慣れた筆筒や身の回りの小物が持ち込まれている。利用者個人の部屋の雰囲気があり、居心地の良い居室となっている。		

※      は、重点項目。